



網走養護学校だより

令和2年度
第 6 号
(通211巻号)
3月11日発行

TEL 0152-48-2137

コロナ禍の令和2年度、ご理解とご協力に深く感謝申し上げます

校長 上 村 喜 明

令和2年度、新型コロナウイルス感染症のまん延により、三度のコロナ波を経験し、3月を迎えました。そして、昨年度の3月はコロナまん延により北海道は臨時休校となり、卒業式ができませんでした。今年度は、コロナ禍ではありますが、制限、対策等を行い、卒業式が挙行できますことを大変嬉しく感じております。

今年度、保護者の皆様には大変ご苦勞をおかけしております。コロナ対策についてもひとえに保護者の皆様のご理解とご協力があつたからこそ、3月を迎えられたと思います。

次年度もコロナ禍での対応は続きますが、新しい取組、方法を検討しながら、進めていきたいと考えております。

今年度の学校評価について、アンケートの提出ありがとうございました。次年度に向けた改善も含めてお伝えいたします。

★★★ 令和2年度学校評価の結果から★★★

皆様には、本年度も学校評価アンケートにご協力いただき、感謝申し上げます。学校評価は年度の教育活動や学校経営について評価し、学校としての組織的・継続的な改善につなげていくものです。今年度もアンケート項目は変化がわかるように最低限度の変更にとどめています。

【保護者アンケート】

- 回答が98%。(昨年度は79%)
- 26項目中15項目で昨年度の結果を上回っている。
- 評価が2点台の項目はない。保護者評価は教職員評価よりも評価点が高いので評価基準を3.20点にした。
- 評価が3.20点以下の項目は、
 - 項目 4 「学校行事を適切に計画実施している」
 - 項目 19 「地域への情報提供を意識し、積極的に情報発信に努めている」
 - 項目 20 「積極的に研修に参加し、授業力や指導の専門性の向上を図っている」
 - 項目 21 「研修で学んだ事柄を日常の実践に生かしている」

【教職員アンケート】

- 回答率100%
- 26項目中17項目で昨年度の結果を上回っている。
- 評価が2点台の項目は3項目であった。
- 評価が2点台(3.00点以下)の項目は、
 - 項目 5 「交流及び共同学習を適切に計画・実施し、効果を上げている」
 - 項目 16 「危機管理マニュアルの整備等、緊急時への対応について準備を整えている」
 - 項目 24 「効率よく業務に当たり、時間外勤務削減に取り組んでいる」

特に評価点が3.20点以下、3.00点以下で低かった項目について、次に改善策等を示しています。

※ 今年度は、コロナ禍によりPTA活動が実施できなかったため、PTA活動の項目は学校評価項目には入れておりません。

項目 4「学校行事を適切に計画実施している」

項目 5「交流及び共同学習を適切に計画・実施支、効果を上げている」

- ・評価では、「新型コロナウイルス感染症のまん延により実施できなかった」との回答が多かった。
- ・計画はしていたものの、コロナ感染症のまん延拡大により、中止せざる終えない状況であった。本校の児童生徒の状態を考えると細心の注意を払う必要がある。感染状況によっては制限、縮小しながら、できる限りの方法で、取り組んできた。
- ・次年度も、コロナの対応、対策はしばらく継続が必要である。新しい生活様式、オンラインなどの ICT を利活用した実践が求められる。

【家庭・地域との連携】

項目 19「地域への情報提供を意識し、積極的に情報発信に努めている」

(18「学校・寄宿舎間で必要な情報を共有し、積極的に連携を深めている」も関連)

- 1 学舎、学部間の連携・協働の強化
 - ・学舎連携（個別懇談年3回、学舎会議年3回、その他登下校時の引継、児童生徒の状態変化等の日常的な連絡）
 - ・保護者、関係機関との支援会議の実施（学部所属 CO が学部主事と調整）
 - ・個別の教育支援計画、個別の指導計画等を活用した児童生徒の情報整理と引継など（情報の共通化、共有）
- 2 事前対応の確認と報告・連絡・相談の徹底
 - ・今年度、服務や怪我、服薬など、大きな出来事が続きました。その状況からは、
 - ①事前の確認・指導/配慮事項の共通理解の不足
 - ②報告・連絡・相談の対応の遅れ
 - ③「慣れ」による確認の不十分さ と押さえている。次年度は、連絡系統を明確化し、報告対応を速やかに進めることができるよう、システムの再検討を行う。
- 3 丁寧な指導と保護者との情報共有
 - 児童生徒の状態から、保護者との情報共有を大切にし、個別懇談以外にも（ケース会議、支援会議）において、参加希望のある保護者の積極的参加と協働活動、必要、希望に応じた関係機関との支援会議の実施
 - 個別の教育支援計画、個別の指導計画、通知表等の一本化（引継様式変更、資料作成、作成期間設定など）
 - 個別の教育支援計画、個別の指導計画の積極的利活用=丁寧な引継と情報交換の日常化（学部間、学舎、関係機関、報・連・相）
 - 必要に応じた校内ケース会議、校外支援会議（希望に応じて保護者・関係機関も交えた支援会議等の実施）
 - HP を活用した教育活動の情報発信（WEB 美術館等の取組）
 - コロナ禍における PTA 活動、おやじの会活動の新しい方法としてのオンラインの活用検討

16「危機管理マニュアルの整備等、緊急時への対応について準備を整えている」

- ・教職員の評定が2点台と低い。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の対応が中心になった。その都度、教職員で共有し状況を協議しながら対応した。
- ・今後は「学びを止めない」という方向で進むと思われることから、どのような方法で行えるかを中心として検討が必要になってくる。また、新型コロナウイルス感染症対応の他、災害に対しての整理、確認を進めることが必要である。
 - 危機管理に関わるシステムの定期的な確認及び日頃からの関係づくり
 - 一人一人の危機管理意識の向上を目指したマニュアル等の再確認
 - セキュリティー関連、災害関連、その他危機管理に関連する整備（物品、マニュアル等）

20「積極的に研修に参加し、授業力や指導の専門性の向上を図っている」

21「研修で学んだ事柄を日常の実践に生かしている」

- 授業力、専門性、日常への還元については、保護者の回答において「わからない」が多かった。今年度も研修を企画し、コロナ禍においても多く実施できた。次年度は、医療的ケアも含め、全教職員が様々な研修に積極的に参加し、日常の授業や指導に生かしていることを指導を通して、説明し、保護者と共有することにより一層努める必要がある。
 - 校内研究における授業力の向上に向けた全員参加研修
 - R4年度北肢研会場校を見据え、全員参加研修
 - 長期休業期間における研修の実施
 - 各学部、研修部等のミニ研修の実施
 - 授業づくり相談の実施（校内、道内特別支援学校教員、特セン所員等を講師として）
 - 校長室だよりにおける校内研修資料の提供（継続）

24「効率よく業務に当たり、時間外勤務削減に取り組んでいる」

- 今年度のようにコロナ対応など、その都度状況が変わるときに、状況に応じて対応を考えることが必要である。新しい事を行う場合、ただ単に「働き方改革」だけを唱えることはできないと考えている。
- 私たち教職員が自らの授業を磨き、その人間性や創造性を高めながら、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことが重要であると考えている。
- 次年度、少しでも働き方改革も考慮しながら進めていきたい。
 - 毎週火曜日を「Days without meetings」ノー会議ディに設定し、担任業務、分掌業務、授業準備や教材研究など、個々の業務推進に当てて活用する。
 - 個別の指導計画作成期間の設定
 - 月2回の定時退勤日を月曜日に設定
 - 職員朝会は基本月・金に縮小し、朝の時間を確保する（学部の打合せを優先）。

今年度の学校評価等を踏まえ、次年度に向けた内容も提示させていただきました。コロナ禍という状況の中、保護者の皆様をはじめ、本校に関わる多くの関係機関の皆様、地域の皆様にご理解、ご協力、ご支援をいただきながら一年間取り組ませていただきました。

今年度の成果と課題を提示させていただきました。これらの課題への取組を通して、改善を図り、校訓にもあるように「明るく、元気に、呼んで学ぶ」子ども達が育つ学校にしたいと考えております。

令和2年度、本当にご迷惑、ご負担をおかけいたしました。また、ご協力もいただき感謝申し上げます。

令和3年度は、今までになかった取組を創意工夫して検討していきます。コロナ禍の状況を考えながら、保護者の皆様や地域の皆様と一緒に取り組んだり、参加したりできるような取組にしていきたいと思っております。

ぜひ、次年度も引き続きご協力のお願いと学校の取組にご参加いただきますようお願い申し上げます。